こだま新聞

第158号
平成20年12月

離島の診療所

新聞にも取り上げられ一躍有名になった八郎潟町出身の医師、安田敏明さんの本が10月に出版されました。

ご本人は、最初東北大法学部を卒業してサラリーマンになったそうですが、仕事の傍らボランティアで海外に出かけていて、医師免許があったほうがボランティアに都合が良いと医学部に入りなおしたという人です。

ボランティアが一段落し、とちの木病院（栃木県栃木市）に勤務していた時期に宮城県網地島に網小診療所（網地島の廃校になった小学校を改修した診療所にちなんで命名された）が開設されることなり、そこの初代院長として赴任することになりました。

島の人は歯科医院に通うことが難しい（1日3便しか船が出ない）ため、海が荒れると前の日に本土に渡り、泊りがけで予約時間に間に合わせることも珍しくなかったそうです。結果、痛くても腫れても我慢する人が多くなったと書いていました。

入れ歯を作るために何度も船で渡り、苦労しているので多少の痛みは我慢して使っている人も多いそうです。

幸い、とちの木病院の知り合いの歯科医院から歯科医師が派遣されることができ、月2回の歯科治療が島で始まったそうです。

高齢者の多い島の人を診療している筆者は歯科のことは詳しくはなくても、摂食と嚥下の一連の動作について感心が高く、歯を失うことで摂食が破綻すると嚥下までの一連の動作が障害されてしまうことを問題にしています。

月に1回、土日の2日間で治療するため、歯科技工所の代表をされている人も一緒に来ていて、一日に数回来てもらい義歯の修理を2日間で行っているそうです。歯科の章で最後に「網小歯科でしっかりとした入歯を作り、噛めば噛むほど網地のある人生を送って欲しい」と書いていました。

チンパンジーと私

講師の阿部弥生先生

11月22日に八郎潟町に精神科医師の阿部弥生先生（土崎・健生クリニック）をお迎えして講演会が行われました。先生は人間の脳について研究されていて、人間に一番近い霊長類のチンパンジーに興味を持ち、3年前にアフリカのタンザニアに行き、チンパンジーの第一人者であるジェーン・グドール博士の研究所を視察してきました。その時の旅行記と人間の脳について講演してくださいました。

講演された先生のお話で印象に残っているのは、「人間は地球というものの存在の意味を知るために生まれてきた生き物」という言葉です。霊長類の霊とは「そこにあるものの意味を感じる能力」と解説し、霊長類のヒト属の中で唯一「客観的に物事を把握する能力があったホモサピエンスだけが生き残り、他の属は淘汰されてきた」という言葉にとても重い歴史を感じました。

チンパンジーのJ.グドール博士

今月の行事

12月
4日　八P連総会
6日　午後休診
7日　チャリティフェス
8日　国保運営委員会
8日　乳児健康診断
12日　2歳児歯科健診
14日　羽後町盆踊サミット
18日　「寿司を握ろう」
21日　ワカサギ釣り大会
23日　天皇誕生日　休診
25日　小・中　終業日

年末年始の休診
12月31日～1月4日

編集印刷　児玉医院歯科　児玉亮　秋田県南秋田郡八郎潟町一日市115-1　電話875-2092